

■ 紅葉山 33 号遺跡「漆塗り弓」の特徴



図4 紅葉山 33 号遺跡の漆塗り弓(文様入り) (石狩町教育委員会 1984 付図に彩色)

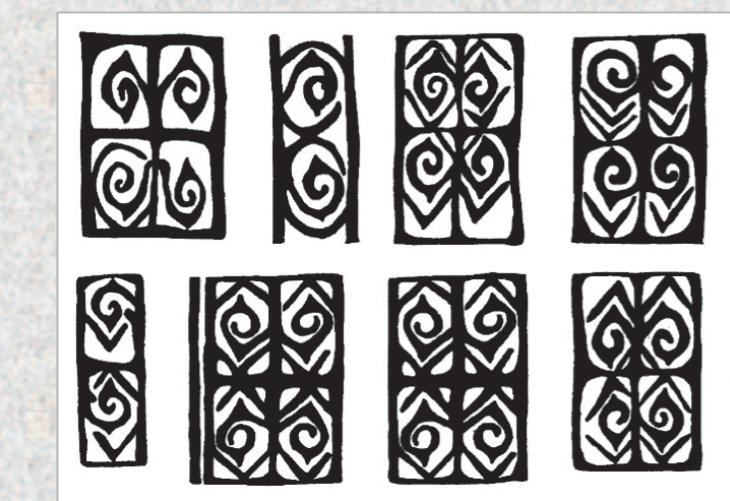
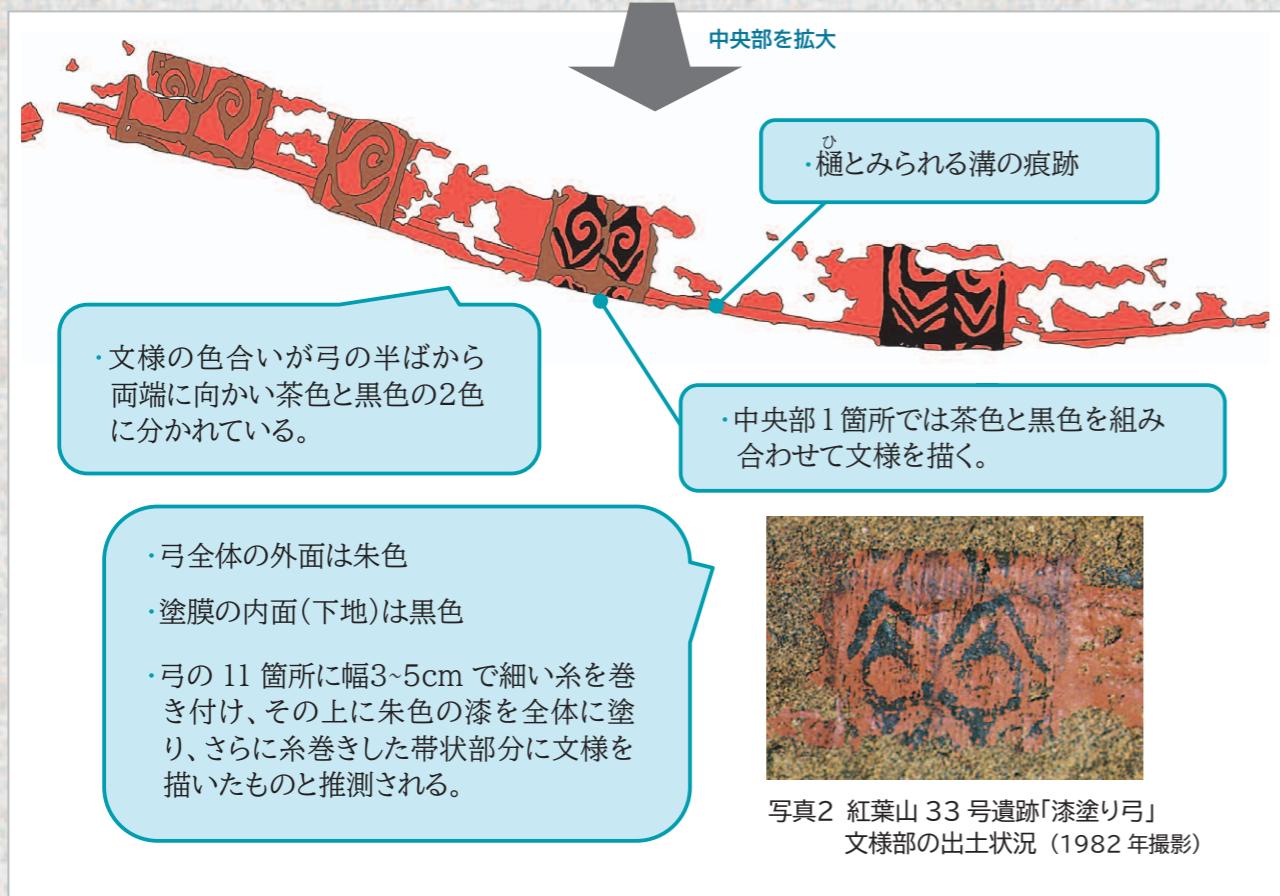
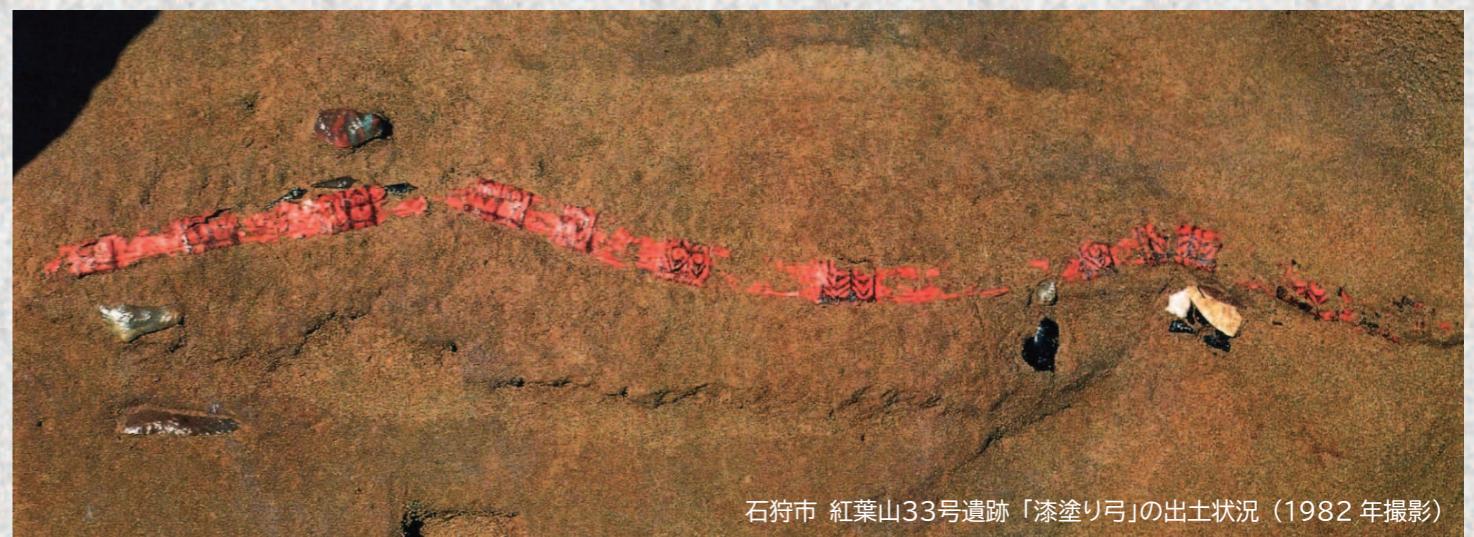


図5 「漆塗り弓」の主要な文様 展開模式図
(作図:石橋孝夫氏)

市指定文化財

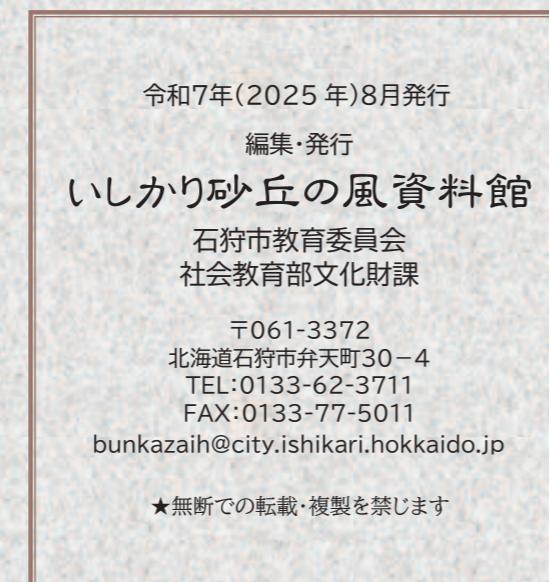
紅葉山33号遺跡出土の 漆塗り弓(文様入り)



石狩市 紅葉山33号遺跡「漆塗り弓」の出土状況 (1982年撮影)

石狩市指定文化財第 10 号

1. 名 称 紅葉山 33 号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り)
2. 品 数 1点
3. 指定年月日 令和7年(2025年)6月 30 日
4. 所有者 石狩市教育委員会
5. 種別 有形文化財
6. 品質及び形状 漆製品 (塗膜が形状をとどめて残存)
朱色や文様が良好に残る
7. 尺 法 弓の全長(現存部)105cm・幅3cm
8. 弓の年代 約 2000 年前 (縄繩文文化)



★無断での転載・複製を禁じます

市指定文化財

「紅葉山 33 号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り)」

概要

紅葉山 33 号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り)は、全体に朱色の漆を塗り、部分的に文様を描いて丁寧に仕上げた、約 2000 年前(縄繩文化前半期)のものです。弓の木質部分は朽ちて失われ、土圧により扁平につぶれていますが、弓に塗られていた漆の塗膜が残った状態で、ほぼ全体の形をうかがえます。残された塗膜の上には、11箇所にトゲ状突起のある渦巻文を基調とする文様が黒色や茶色で描かれています。このような渦巻文を入れた漆塗り弓は珍しいものです。

北海道の縄文・縄繩文化を通じた漆文化の最終段階を示す希少な資料として歴史的価値を有し、他地域との関わりを考察する上でも重要な資料です。



写真1 紅葉山 33 号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り)

文様は弓全体の 11 箇所で両面に展開して帯状に施されています

①②③:弓の文様部

④:出土したときの表面 ⑤:出土したときの裏面

(所蔵:石狩市教育委員会 画像提供:国立アイヌ民族博物館(2024年撮影))

※画像の加工・補正をおこなっているものを含む

■ 紅葉山 33 号遺跡と「漆塗り弓」の出土状況

紅葉山 33 号遺跡は、現在の石狩市花川南公園内にあります。この遺跡は縄繩文化前半期の墓地で、今から約 2000 年前と推定されています。

「漆塗り弓」は、公園がつくられる前の 1982 年に、当時の石狩町教育委員会が実施した発掘調査により墓壙の一つ(GP-46)から出土しました。墓壙(GP-46)は大きさが直径約 160 cm、深さ 75 cm の円形で、「漆塗り弓」は土器や石器などの多くの遺物とともに見つかりました。

「漆塗り弓」の出土状況は、墓壙の底部西側を台状に掘り残し、そこに置かれていたとみられ、副葬品として安置されたものと考えられます。遺体は残っていませんが、他の出土品との位置関係から、弓を被葬者に沿うように左手側に置いて埋納した可能性があります。

精巧で装飾的な漆製品であるとともに、台状部に置かれて副葬されていた状況から、この弓が日常での実用的な使用ではなく、儀礼などの「飾り弓」として用いられたことが考えられます。

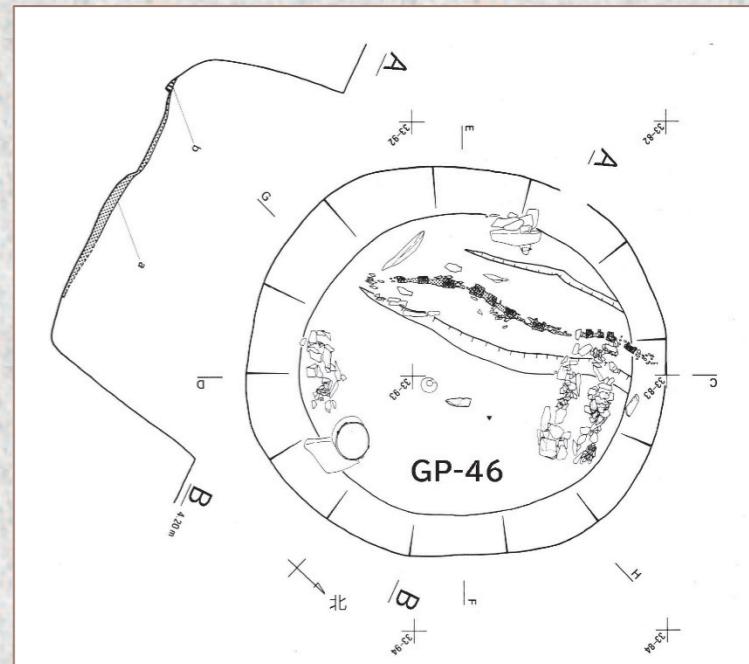


図1 紅葉山33号遺跡 墓壙(GP-46)遺構図と弓の出土位置
弓の上下について、出土状況から南東側(本図の左側)が弓の上端であった可能性が考えられます
(石狩町教育委員会 1984『紅葉山33号遺跡発掘調査報告書』一部改変)

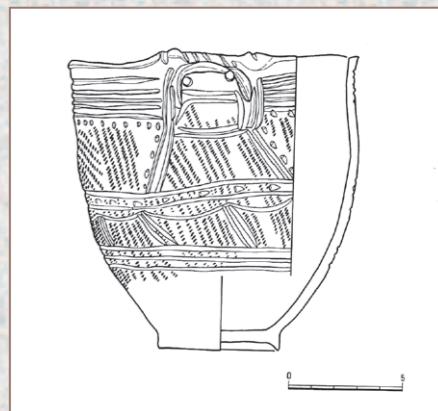


図2 「漆塗り弓」と同じ遺構(GP-46)から出土した土器
(石狩町教育委員会 1984)



図3 紅葉山33号遺跡出土の漆塗り弓(文様入り) (石狩町教育委員会 1984 付図)